

## 和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	保健体育
科目名（英文）	Sports and Exercise
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	1年次・前期・後期
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	池田 拓人
科目ナンバリング	P4001JD
関連科目	

### 本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

医療人として相応しい心身の健康状態を維持するための健康・スポーツの重要について深く理解する。特にスポーツ・運動による体力・競技力の向上、健康の維持増進などスポーツサイエンスに関連する理論と実技を通して理解を深める。また、スポーツ技術の習得はもちろんのこと、スポーツの面白さ、楽しさを味わい生涯スポーツの重要性についての見識を身につける。

### ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

・人の健康に携わる職業である薬剤師として、より高い倫理観、社会人としての良識を備えているもの

生涯にわたって健康的な生活を送る方法を学ぶことは、医療人である薬剤師にとって重要である。本科目で学ぶ内容は、人の健康に携わる職業である薬剤師として、高い倫理観や良識を持って医療に貢献していくための基盤となるものである。

### アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

スポーツサイエンスに関連する理論及び実技を通じたスポーツの重要性についての理解を授業レポート及び記述試験（あるいは修了レポート）により評価する。

## 授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	健康の維持増進と身体運動	講義 (講義室)	レポート
2	トレーニングのために使えるスポーツサイエンス	実習 (体育館)	レポート
3	体力測定の意義と方法	実習 (体育館)	レポート
4	筋力、敏捷性、持久力の測定と実践活用法	実習 (体育館)	レポート
5	スポーツ科学の基礎知識、運動強度と心拍数	実習 (体育館)	レポート
6	有酸素運動と筋力トレーニング、健康スポーツ	実習 (体育館)	レポート
7	スポーツ実習(1)	実習 (体育館)	期末試験
8	スポーツ実習(2)	実習 (体育館)	期末試験
9	スポーツ実習(3)	実習 (体育館)	期末試験
10	スポーツ実習(4)	実習 (体育館)	期末試験
11	スポーツ実習(5)	実習 (体育館)	期末試験
12	スポーツ実習(6)	実習 (体育館)	期末試験
13	スポーツ実習(7)	実習 (体育館)	期末試験
14	スポーツ実習(8)	実習 (体育館)	期末試験
15	スポーツ実習(9)	実習 (体育館)	期末試験

## 教科書

「もっとなっとく使えるスポーツサイエンス」 征矢英昭、本山貢、石井好二郎 編著 (講談社)

## 参考書

特に指定しない。

## 評価時期

レポート (毎回)

期末試験 (15 回後)

## 評価方法

レポート (50%)

期末試験あるいは修了レポート (50%)

## 評価基準

授業への出席が 4/5 未満の場合は不合格とする。

総評価の 60%以上で合格。

### **学生へのメッセージ**

集団活動をともなう運動実践においては他者とのコミュニケーションを図り、積極的に授業参加をして下さい。

### **担当者の居室等**

質問は授業前後に随時受け付けます。

連絡先 E-mail : [takuto@wakayama-u.ac.jp](mailto:takuto@wakayama-u.ac.jp)

### **備考、事前・事後学習課題**

事前学習では健康の維持・促進に関するテーマについて、教科書及びインターネットを含むメディア媒体による情報収集と知識の集積に努めて下さい。事後学習では、授業で学習した内容について、日常生活においてフィードバックすることで次時に向けたコンディショニングに取り組んで下さい。事前事後学習を合わせて2時間以上の取り組みが望ましい。

## 和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	ケア・マインド教育
科目名（英文）	Care Mind Education
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	1年次・通年
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	安原 智久、須野 学、永田 実沙、村田 顕也、竹山 重光、山口 雅子、水越 正人
科目ナンバリング	P5001JA
関連科目	社会薬学Ⅰ、社会薬学Ⅱ、社会薬学Ⅲ、社会薬学Ⅳ、社会薬学Ⅴ、社会薬学演習、医療倫理、地域医療薬学Ⅰ、地域医療薬学Ⅱ、事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、病院・薬局実習

### 本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

医療従事者を志すものとして、病める人の視点で考えられる人間形成は必須である。また、行政・司法を含めた社会制度を知ることにより、個々の患者の社会的背景、支援の状況についての深い理解に到達することが可能とある。本科目では、医学部、保健看護学部、薬学部の共通講義として、立場の異なる医療従事者を目指す者が、前述の視点や理解に基づいた相互理解を求める。

### ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

- ・人の健康に携わる職業である薬剤師として、より高い倫理観、社会人としての良識を備えているもの
- ・単に知識、技能を獲得しているのみではなく、それらを統合的に活用でき、患者の社会的、心理的背景にも配慮することができるもの

ケア・マインド教育は、薬学において高い倫理観、良識をもって患者の社会的、心理的背景にも配慮する精神を獲得するために基本となる姿勢と心構えを獲得する科目である。本科目で修得が期待できる基本的な姿勢と心構えは、医療従事者としての能力を統合的に活用する臨床でのパフォーマンスにつながるものである。

### アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

本科目は、医療従事者としてのあり方を培う最も基本的部分となる。従って、授業内容の理解のみならず、参加姿勢や他学部および薬学部の他学生への接し方、コミュニケーションを取ろうとする姿勢を、将来の医療従事者としての適切性を規準に評価する。

## 授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	イントロダクション (薬学部のみ) : 授業の概要と進め方、医療従事者としての基本事項	講義 (講義室)	観察記録 ピア評価
2	事前学習 (薬学部のみ)	グループワーク (講義室)	観察記録、ピア評価、レポート・プロダクト
3	オリエンテーション	講義 (遠隔)	観察記録 ピア評価
4	視覚障害 (講義+GW)	講義・グループワーク (遠隔)	観察記録、ピア評価、レポート・プロダクト
5	医療人類学 (講義)	講義 (遠隔)	観察記録 ピア評価
6	医療人類学 (和歌山の人々の暮らし) (講義+GW)	講義・グループワーク (遠隔)	観察記録、ピア評価、レポート・プロダクト
7	がん (講義+GW)	講義・グループワーク (遠隔)	観察記録、ピア評価、レポート・プロダクト
8	セルフメディケーション (講義)	講義 (遠隔)	観察記録 ピア評価
9	セルフメディケーション (GW)	グループワーク (遠隔)	観察記録、ピア評価、レポート・プロダクト
10	セルフメディケーション (発表)	プレゼンテーション (遠隔)	観察記録、ピア評価 レポート・プロダクト、プレゼンテーション
11	ダウン症	講義 (遠隔)	観察記録 ピア評価
12	医療人類学 (GW)	グループワーク (遠隔)	観察記録、ピア評価、レポート・プロダクト

13	医療人類学（発表）	プレゼンテーション （遠隔）	観察記録、ピア評価 レポート・プロダクト、プレゼンテーション
14	薬害 B 型肝炎	講義 （遠隔）	観察記録 ピア評価
15	医学部（GW）	グループワーク （遠隔）	観察記録、ピア評価、レポート・プロダクト
16	発表 1	プレゼンテーション （遠隔）	観察記録、ピア評価 レポート・プロダクト、プレゼンテーション
17	発表 2	プレゼンテーション （遠隔）	観察記録、ピア評価 レポート・プロダクト、プレゼンテーション
18	薬物乱用（講義）	講義 （遠隔）	観察記録 ピア評価
19	薬物乱用（GW）	グループワーク （遠隔）	観察記録、ピア評価、レポート・プロダクト
20	薬物乱用（発表）	プレゼンテーション （遠隔）	観察記録、ピア評価 レポート・プロダクト、プレゼンテーション
21	事後学習（薬学部のみ）	グループワーク （講義室）	観察記録、ピア評価、レポート・プロダクト
22	まとめ（薬学部のみ）	プレゼンテーション （講義室）	観察記録、ピア評価 レポート・プロダクト、プレゼンテーション

## 教科書

教科書は使用せず、適宜テキストを配布する。

## 参考書

特になし

## 評価時期

講演の聴講およびグループワークの姿勢に関する教員の観察記録およびグループワークにおけるピア評価（毎回）

レポート・プロダクトの評価（2,4,6,7,9,10,12,13 回時、15～17 回時、19～22 回時）

発表会でのプレゼンテーション（10,13,16,17,20,22 回時）

## 評価方法

講演の聴講およびグループワークの姿勢に関する教員の観察記録およびグループワークにおけるピア評価（60%）

レポート・プロダクトの評価（30%）

発表会でのプレゼンテーション（10%）

## 評価基準

総評価の 60%以上で合格。

## 学生へのメッセージ

本科目は生涯に渡って必要となる多職種連携に関する能力、および医療従事者としての精神を養う第一歩である。1 年次においては、高い到達点を求める訳ではないが、医療従事者としての基本的資質を厳しく評価する。本授業に参加する際には、プロフェッショナルとして臨むよう心がけること。

## 担当者の研究室等

研究室 503

オフィスアワー：毎週月曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

## 備考、事前・事後学習課題

本授業で求めるグループワークを円滑に進行するために、講演内容に関する予習復習（4 時間程度）を行うことが望ましい。また、グループワークの時間内では不明点の解決に至らないことが予想されるため、自発的な情報の収集、評価、活用へのべ 7～10 時間程度は取り組むことが望ましい。